

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	現代社会
科目基礎情報						
科目番号	0113		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	電子機械工学科		対象学年		3	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	実教出版『高校現代社会』（2年次に使ったものをそのまま使用する。）					
担当教員	三重野 雄太郎					
到達目標						
1:実社会に関心を持ち、これからの社会を担っていく主権者としての自覚を養う。 2:民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性、今日の国際的な政治・経済の仕組みなどといった、政治・経済に関する基本的な知識を身につける。 3:現代社会において生じる様々な問題について、主体的に考察し、多角的な観点から捉える力を身につけると共に、自身の意見を論理的に記述できる能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	現代社会における諸問題に対し、当事者意識を持ち、きちんと自身の意見を持ち、また、行動しようとしている。		現代社会における諸問題に対し、当事者意識を持っている。		現代社会における諸問題に対し、当事者意識を持っていない。	
評価項目2	学習した事項について十分な知識を有している。		学習した事項についてひととおりの知識を有している。		学習した事項についての知識が不十分である。	
評価項目3	現代社会における諸問題に対する自身の意見を十分な根拠を挙げ、論理的に表現することができる。		現代社会における諸問題に対する自身の意見を持ち、その理由を挙げることができる。		現代社会における諸問題に対する自身の意見を持っていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・これからの社会を担う主権者として必要な素養、すなわち、現代の社会がどのような仕組みで動いているのかについて学ぶ。					
授業の進め方・方法	・基本的には講義形式で行うが、グループワークや、個人での口頭発表などを取り入れる場合がありうる。学生の積極的な参加を期待する。					
注意点	・高校生の年齢であるとはいえ、高専生である以上、高等教育機関の「学生」として振る舞うこと。 ・自分の頭で考えること。 ・友人と議論するなどして様々な考えに触れること。 他者の意見にきちんと耳を傾けること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		この授業の目標、授業計画、評価方法、受講上の注意点を説明できる。	
		2週	青年期の意義と課題		青年期が、人生においてどのような意味を持つのかを認識し、自身が青年期をいかに過ごすか表現できる。	
		3週	法と社会		社会における法の意義や法の種類について説明できる。	
		4週	民主政治における個人と国家		国家とはどのようなものか説明できる。	
		5週	民主政治の原理とその展開		社会契約説の政治思想上の意義や権力分立の意義について説明できる。	
		6週	民主主義の展開と法の支配		法の支配とはどのような概念か説明できる。	
		7週	前期前半のまとめ		既習事項を復習し、これまで学習した内容について説明できる。	
		8週	中間試験		合格点をとる。	
	2ndQ	9週	世界の主な政治体制		外国の政治システムについて説明できる。	
		10週	明治憲法と日本国憲法		大日本帝国憲法と日本国憲法の違いについて説明できる。	
		11週	基本的人権の性格と平等権		法の下での平等という概念について説明できる。	
		12週	基本的人権と自由権		自由権について説明できる。	
		13週	社会権・参政権・請求権・新しい人権		社会権、参政権、請求権、新しい人権について説明できる。	
		14週	前期後半のまとめ		既習事項を復習し、これまで学習した内容について説明できる。	
		15週	期末試験		合格点をとる。	
		16週	答案返却・試験解説		前期の現代社会の学習への取り組みを振り返り、後期の取り組みの目標を設定できる。	
後期	3rdQ	1週	平和主義		日本国憲法第9条の理念やそれをめぐる諸問題について説明できる。	
		2週	国会のしくみと役割		国会の役割について説明できる。	
		3週	内閣のしくみと役割		内閣の役割について説明できる。	
		4週	裁判所の役割		裁判所の役割について知る。裁判員制度の概要を知り、自身も裁判員として携わることになるかもしれないという自覚を持つことができる。	
		5週	地方自治の現状と課題		地方自治制度の概要を説明できる。	
		6週	政党の役割		民主政治における政党の存在意義について説明できる。	

		7週	後期前半のまとめ	既習事項を復習し、これまで学習した内容について理解を説明できる。
		8週	中間試験	合格点をとる。
	4thQ	9週	選挙と選挙制度	選挙制度の概要を説明できる。
		10週	国際社会と国際法	国際法について説明できる。
		11週	国際社会と集団安全保障体制	国際連盟が作られた背景と失敗した理由について説明できる。
		12週	国際連合の役割と課題	国際連合の仕組みについて説明できる。
		13週	公害の発生と防止	公害対策について説明できる。
		14週	社会保障制度	社会保障制度の概要について説明できる。
		15週	期末試験	合格点をとる。
		16週	答案返却・試験解説 1年間のまとめ、来年度の授業の展望	1年間の学習を振り返り、これからの社会を担っていく主権者として自分はどのようにしていくか表現できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	2	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	
			地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	2	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	2	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0